

独断

注目商品

ラベルにFRACコードを記載した国内初の殺菌剤

疫病・べと病用殺菌剤

ゾーベックエニケート



◆仕様

【ばれいしよ疫病に関する登録】

希釈倍数…5000倍

使用液量…10003300ℓ/10a

使用時期…収穫7日前まで

本剤の使用回数…2回以内

使用方法…散布

オキサチアピプロリンを含む農薬の総使用回数…2回以内

◆【規格】

北海道向け…500ml×20本

全国向け（北海道を含む）…100ml×10本×6箱

◆問い合わせ先

丸和バイオケミカル株式会社

TEL…(03) 59962-9731

疫病・べと病用の新規殺菌剤である「ゾーベックエニケート」がデュポン株式会社から発売された（販売は丸和バイオケミカル株式会社）。適用作物は、疫病でばれいしよ、トマト、べと病できゅうり、はくさい、レタス、ぶどうになる。

有効成分のオキサチアピプロリンは、まったく新しい作用点と作用機構を持ち、低薬量で防除できる特徴がある。既存の殺菌剤で感受性が低下していた病原菌に対しても高い活性を示すほか、病原菌生活環のさま

ざまなステージに作用する。浸透移行性を有するため、ばれいしよでいえば、開花前の栄養生長後期、つまり疫病の初期感染が懸念される時期での予防的な使用をデュポン・丸和両社は勧める。処理成分の80%の量が葉のワックス層に存在することから、長期残効性と散布1時間後には十分な耐雨性が確保される。また、葉内細胞にまで到達する少量の成分は、治療効果や胞子形成阻害活性、植物細胞内での移行性に働く。さらに、茎疫病（注…茎部の疫病斑）にも防除効果を発揮する。この薬剤は、こうした特性もさることながら、ラベルにFRAC番号を記載したことが注目に値する。デュポンによると、国内の農業会社でこの対応を図ったのは今回のゾーベックエニケートが一番最初だと思われるという。

FRAC(Fungicide Resistance Action Committee)の略称で、世界の代表的な農業化学製品製造会社はFRACという団体を設立し、耐性菌の発生情報やモニタリング方法、使用ガイドラインなどを提供している。そのなかに世界のほぼすべての殺菌剤を作用機構別に分類したFRAC CODE LIST (FRACコード表) というものがある。日本にもJapan FRACという支部があり、このFRACコード表より国内で使用されている殺菌剤を抜粋、改変したものを公開している (<http://www.frac.com>)。薬剤は交差耐性のあるグループに分類されており、系統ごとに固有のFRACコード（番号、記号）が指定されている。FRACコードが同じであれば交差する可能性があるが、異なれば交差しない。薬剤間の交差関係を簡単に判別できるため、体系防除や輪番使用の際の薬剤選定にあたって有用になる。では、実際の防除でどうすべきか。デュポンによると、耐性菌管理を上手に行なうということは現実的に薬剤そのものを上手に効果的に使うこととかなり似ており、耐性菌管理をすれば防除もうまくいくのだという。反対に、防除をうまくやるとすれば耐性菌管理をうまくやるといふふうに相互の関係があると説明している。以下は、ゾーベックエニケートにも絡んだ適正な薬剤の使用法になる。